

# ○○市より 約0,000円の助成\* があります。

大腸がん検診(便検査)は個人診療の場合、4千円程度かかる検査ですが、40歳以上の方(昭和xx年x月xx日までに生まれた方)が市の検診を受けると、市から約x,xxx円の助成を受けていることとなります。(自己負担xxx円)

検査費用
約〇〇〇〇円
助成金
- 約〇〇〇〇円
自己負担金
〇〇〇〇円

\* 現金が支給されるわけではありません。

今年度の受診期限は、

平成00年0月00日

例年、受診期限が近付くと大変混み合います。  
お早めにご予約・ご受診ください。

## 大腸がん検診の流れ

1. 受診場所を選ぶ  
同封の医療機関リストからお選びください。
2. 医療機関に検査容器と問診票を取りに行く
3. 自宅で便を2日間採取
4. 検査容器と問診票を医療機関に提出
5. 検査の結果\*  
約2~3週間程で結果が出ます。  
検査結果を確認してください。  
**「要精密検査」という結果が出た場合は、必ず医療機関で精密検査を受けてください。**  
精密検査の第一選択は全大腸内視鏡検査です。

\* 検診は自治体と、各医療機関が連携して行っています。精密検査の結果は関係機関で共有され、市区町村へと報告されます。また、最初に受診した医療機関と異なる医療機関で精密検査を受けた場合は最初に受診した医療機関にも後日、精密検査結果が共有されます。(医療機関の検診精度向上のため)

○○市 健康福祉部 ○○○課  
〒000-0000 ○○○○○○○○0-00-0  
TEL 000-000-0000 FAX 000-000-0000

大腸がん  
検診の  
お知らせ

大事な検診、  
必ず受けて下さい



国立がん研究センター  
齋藤博先生



# 斎藤医師に聞きました。

# 大腸がんについて、3つのポイント

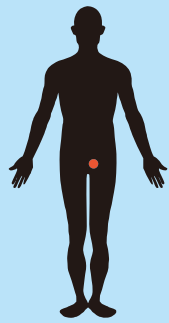
POINT  
01

## 「早く見つけて、早く治す」

ことが大切。早期のうちに治療すれば90%以上が治癒します\*1

大腸がんは、早期で発見すれば、多くの場合負担の少ない内視鏡での手術で治療が可能です。入院は2~3日、または必要ない方もいらっしゃいます。大腸がんの発見と治療は、早ければ早いほど負担は少なく済みます。しかし、進行してがんが肺などに遠隔転移した後に発見すると、生存率は大きく下がってしまいます。

早期発見した場合(Ⅰ期)



5年相対生存率 **98.9%**

早期発見できなかった場合(Ⅳ期)



5年相対生存率 **19.6%**

\*1 ここでいう「治る(=治癒)」とは、診断時からの5年相対生存率です。相対生存率は、がん以外の原因で亡くなる人の影響を除いた数値です。出典:全がん協加盟施設の生存率共同調査(2006~2008年全症例) このリーフレットは、国立がん研究センター保健社会学研究部が作成しました。

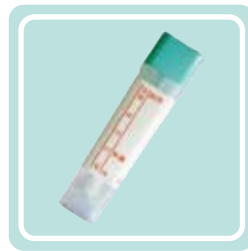
POINT  
02

## 「自宅で簡単にできる」

大腸がん検診は**便検査**です\*2

大腸がん検診は自宅で簡単にできる便検査です。内視鏡ではないですよ。

「大腸がん検査って、お尻からカメラ入れるやつでしょ」と誤解してる方多いんです。最初の大腸がん検診は自宅で簡単にできる検便です。トイレで便を2日間採取して医療機関に提出するだけ。それで異常が見つかった場合のみ、医療機関で内視鏡の検査をするんですよ。



検査キット



容器のフタについた棒で便の表面を採取

注) 痔の方もお受けください。現在明らかな出血や痛みがある場合は時期をずらして受けることをおすすめしますが、そのような症状がない場合は検査結果にはほぼ影響がありません。

\*2 検診では、がんでないのに「要精密検査」と判定される場合や、がんがあるのに見つからない場合もあります。

POINT  
03

## ほとんどの大腸がんは早期のうちは

## 「自覚症状がありません」

みなさん「血便がでたら」とか「異常を感じたら」病院に行こうっておっしゃるんですが、大腸がんは、早期には自覚症状がないんです。

日本では毎年約13万人が大腸がんにかかり\*3 5万人が命を落としています\*4。早期には自覚症状がないので「異常を感じたら」では、手遅れになる場合があります。検診は毎年定期的を受けてください。もちろん、血便、腹痛、便の性状や回数に変化した、などの症状がある場合は次の検診を待たずに病院に行きましょう。

大腸がんに罹患する人が増加しており、女性の部位別がん死亡数第1位。男性でも肺がん・胃がんに次いで死亡者数が多いんです\*4。検診を受けることでがんによる死亡リスクが減少します。命を守るため、大腸がん検診を必ず受けてください。

\*3 出典:国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」地域がん登録全国推計によるがん罹患データ(1975~2013年)  
\*4 出典:国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」人口動態統計(2016年)

